

お子様は、絶対に
真似しないで
下さい！



矢部浩之 (『サインサイン』)
 岡村隆史 (『サインサイン』)
 大河内奈々子
 宮迫博之 (『刑上がり決死隊』)
 木下ほうか
 山本太郎
 八木小織
 山城新伍 (特別出演)
 小林稼待 (特別出演)
 正司花江
 志賀勝
 笹野高史
 塩見三省
 笑福亭松之助
 中田水タン
 白竜 (友情出演)
 山田スミ子
 石倉三郎
 秋野暢子

岸和田
 BOYS BE AMBITIOUS
 少年愚連隊

●監督/井筒和幸 ●製作/中川滋弘、木村政雄 ●プロデューサー/中沢敏明 編劇 米山幹
 ●原作/中嶋利一 (岸和田少年愚連隊、その続編『少年』) ●脚本/野島信、我妻正義 ●撮影/浜田敏 ●照明/渡邊孝一
 ●美術/飯石剛典 ●録音/鈴木重 ●編集/眞田功 ●配給/松竹株式会社、吉本興業株式会社、松竹富士株式会社

肩で風を切って歩いていた頃——

何も恐いものなどなく、世の中の中心は自分自身だと思い、うぬぼれだけを両肩に乗せ、へなちょこな風を肩で切って歩いていた頃。

少しずつ風が強くなり、ある日突然「やめたー」といいながら

上手に歩くことを覚える少し前の、どんな強い風の時でもまばたきさえしなかったあの頃。

「ケンカ」にあけくれた少年たちは、何を考え、何を感じていたのでしょうか。
つい、物事を斜めから見てしまう少年たちが、初めて物事を正面から見据えなければならぬ時、彼らは何を思うのでしょうか。
90年代の青春小説で第1位に選出された原作を、多くの期待に応え、映画化したします。

岸和田 BOYS BE AMBITIOUS 少年愚連隊

【解説】

大阪の南に位置する岸和田市。「だんじり祭」で有名なその町に住んでいる少年たちがいる。

「ケンカ」に生き、「仲間」に生き、「恋愛」に生き、「親子」に生き、そして「岸和田」に生きていく少年たちの姿がここにある。

椎名誠に認められた中場利一原作の『岸和田少年愚連隊』は一昨年、本の雑誌社から出版され、あらゆるメディアから注目され、待望の続編「血煙り純情篇」も発売された。

製作・宣伝にわたって吉本興業の全面的なバックアップを受け、『ガキ帝国』や『二代目はクリスチャン』などで絶大な支持を得ている井筒和幸がメガホンをとる、岸和田を中心とした大阪でのロケーションを敢行する本作は、必ずや観客に「感動」を与えてくれるだろう。

映画『岸和田少年愚連隊』は、映画本来の「笑い」と「涙」を爽やかに描くエンターテインメント!

96年春休みロードショー公開!!

1970年代、こんなコトがありました。

- '70 日本万国博覧会(EXPO'70)が大阪で開催
アニメ「あしたのジョー」TV放映スタート
- '71 マクドナルドの日本第1号店がオープン
「仮面ライダー」TV放映スタート
- '72 連合赤軍、浅間山荘を占拠
バンドのランラン、カンカン上野動物園で公開
石油危機、物不足バニック、物価上昇起こる
- '73 ハイセイコーが中央競馬界にデビュー、競馬ブーム巻き起こる
- '74 超能力テレビ番組続々登場、街中の少年がスプーン曲げに挑戦
ミスタージャイアンツ・長嶋茂雄が現役引退
- '75 「紅茶きのこ」健康法が驚異的に全国に広がる
「おかげ/たいやきくん」レコード発売、爆発的ブームにノックアウト事件が発覚
- '76 アントニオ猪木対M・アリの格闘技世界一決定戦、判定で分ける
- '77 巨人軍の王貞治選手、通算756号のホームラン達成
カラオケが一大ブームへのちにカラオケボックスが進出してくる
- '78 福岡市の菓子メーカーがホワイトデーを発案、直ちに全国に広がる
- '79 『3年B組金八先生』TV放映スタート
ソニーのウォークマンが登場、イッキに若者の間に浸透する
インベーダーゲーム登場、街中のゲームセンターが賑わう

【スタッフ】

監督/井筒和幸
製作/中川滋弘
木村政雄
プロデューサー/
中沢敏明
櫻望
米山紳
原作/中場利一
(『岸和田少年愚連隊』本の雑誌社刊)
脚本/鄭義信
我妻正義
撮影/浜田毅
照明/渡邊孝一
美術/細石照美
録音/鈴木肇
編集/富田功
助監督/小笠原直樹
製作担当/吉村光男
音楽プロデューサー/
佐々木麻美子
製作/松竹株式会社
吉本興業株式会社
製作協力/株式会社タイムズイン
配給/松竹株式会社
松竹富士株式会社

【登場人物】

チユンパ……………矢部浩之(「ナインティン」)
小鉄……………岡村隆史(「ナインティン」)
○
リョーコ……………大河内奈々子
サイ……………宮迫博之(「雨上がりの死闘」)
サダ……………木下ほうか
代表……………山本太郎
ウミ……………八木小織
○
釜飯屋店長……………山城新伍(特別出演)
○
カオルちゃん……………小林稔侍(特別出演)
○
タカ……………正司花江
岩田……………志賀 勝
杉山先生……………笹野高史
赤井……………塩見三省
喜一……………笑福亭松之助
ガードマン……………中田ボタン
看板屋の兄……………白竜(友情出演)
古参のエイトレス……………山田スミ子
利男……………石倉三郎
お田ん……………秋野暢子

●岸和田メモ

大阪市内から和歌山方面へ電車で30分の場所に、およそ300年の歴史と伝統が自慢の「だんじり祭」の街、岸和田市はある。今は競輪場があるだけになってしまったが、この映画の舞台となる1970年代には競馬場もあって、開催日には街の人口の何倍ものオヤジどもで溢れていた。

毎年9月14日、15日に、威勢良く街角をかける地車の迫力は満点で、その勇壮な祭りは今や全国的に有名だ。

千亀利城とも呼ばれた岸和田城は、今も昔も街のシンボルになっている。泉州工業地帯の中心で、近くには、24時間眠らない空港・関西国際空港ができ、今後ますますの発展が期待されている。

春休み3月16日(土)ロードショー!

ナインティン・フォト入り特製ネック・ポーチ付き 特別鑑賞券(一般 1500円/学生 1300円)絶賛発売中

地下鉄東銀座駅下車・駐車場完備
松竹セントラル2 (5550) 1631
土・日・祝&ひ
9/23-4/7

西武ロフト館前・三葉ビル7F
渋谷シネパレス (3461) 3534
土・日・祝&ひ
9/23-4/7

東口・紀伊國屋ビル7F
新宿ピカデリー3 (3356) 3614
土・日・祝&ひ
9/23-4/7

連日 10:30 12:40 2:50 5:00 7:10 連日 10:40 12:50 3:00 5:10 7:20